「平和と人権」市民ネットワーク情報 N017-11

事務局発行(℡ 0557-45-1182) http://peaceito.moo.jp 2017.11/30

「伊東市民アクション」、誕生!

◆NHK は夜 7 時のニュース番組で、連日大相撲の日馬富士の暴行問題をトップに取り上げていました。他方、新聞紙上は希望、民進、立憲民主の合従連衡の動きを報じています。憲法改正、自衛隊合憲化の問題はマスコミで取り上げるだけの話題性がないかのようです。事実、「安倍改憲 NO!」の 3000 万署名を取りに近所をまわると、ほとんどの人はこの問題の"現実性"を膚では感じていません。が、安倍首相は 9 条加憲を最大の政治的使命としています。マスコミが取り上げず、国民の意識が高まらないうちに一気に国会(衆・参)発議に持って行こうとしているのかもしれません。こうした戦略を封じるために、私たち市民の側では、国会論議が始まる前に、対抗運動を展開できる体制を作っておくことが必要だと考えます。かつて、小泉内閣から第一次安倍政権にかけ、憲法改正に反対して全国各地に「九条の会」が誕生し、政権の改憲策動を阻みました。今、以前にもまして、「草の根の市民運動」の重要性が高まっています。一人一人の志をつなぎ、力を合わせて 9 条改憲を阻む活動を進めていきたいと考えます。

◆以上のような趣旨で、伊東に**「安倍 9 条改憲 NO! 伊東市民アクション」**を立ち上げました。これまで毎月の「19 日行動」を主催してきた「総がかり行動　伊東連絡会」を改組し、幅広い個人や団体が加入できる会としました。「市民ネットワーク」事務局も、会の結成に参与しています。新組織の呼びかけ文と会員個票を添付しました。「呼びかけ人」には、「市民ネットワーク」設立の時に「呼びかけ人」となっていただいた方が何人も名を連ねています。双子とは言いませんが、つながりは濃いです。両者の関係について、いくつか補足します。

①「市民ネットワーク」はこの会と目的を同じくし、全面的に活動をともにします。ただし、**団体加入はしません。**あくまで、個人の意志決定を尊重するためです。

②「賛同者」の皆さんには、「伊東市民アクション」の会員となっていただくよう力添えをお願いします。**加入していただける方は、その旨を電話 or メールで私(三好康昭)まで知らせてください。**こちらで登録手続きをします。連絡方法は、「通信」配布方法と同じにします。

③「市民アクション」も会員(団体及び個人)の自発性を基本に活動します。「ネットワーク情報」等を通じて活動への協力をお願いしますが、参加の「要請」はしません。

④「市民ネットワーク」が共催するイベントについては費用を分担し、「ネットワーク」の会計から支出します。

※「賛同者」の皆様のご理解とご協力をお願いします。何かご不明な点がありましたら、「市民ネットワーク」事務局までお尋ねください。

➡ 三好康昭　☎ 0557-45-1182

11/11「憲法、ミニ学習会 in 川奈」の報告

◆署名活動を学習とリンクして行う趣旨で、地域ごとに「憲法、ミニ学習会」を企画しました。第一回目は川奈、11 月 11 日(土)午後に「小室コミセン」で開きました。「ミニ」集会ですので、スタッフも含めて 20 名前後の参加者を予想しましたが、強風にも関わらず、30 名+小学生 1 名が会場に足を運び、用意した資料が足りなくなりました。川奈・吉田地区の「市民ネット」賛同者がほとんどでしたが、街中のイベントでは顔を見ない方も参加され、地域で開いた意味がありました。

◆斎藤昭夫さんの開会の挨拶に続いて、三好から「九条加憲の狙いは何か」と題する報告をしました。理屈っぽいテーマを予定時間をはるかに超過して話したにもかかわらず、「勉強になった」、「わかりやすかった」等の温かい慰めの言葉をいただきました。質疑の中で、若い人たちにどう伝えるかが難しい、との指摘がありました。また、自衛隊合憲後の行方に不安を感じるとの感想も。

休憩を挟んで、第二のテーマ=メガソーラーに話が移りました。秋藤俊夫さん作成のビデオを見たのち、重岡さんから八幡野メガソーラーの現在の審査状況について話がありました。また、この日新聞報道された別の業者による違法伐採の件も触れられました。質疑の中では、市長と行政の対応の生ぬるさを指摘する声がありました。

第一回目の憲法学習会を、事務局では以下のように評価しました。なお、全文は「九条改憲の狙いは何か」の説明資料とともに、「市民ネットワーク」の HP (http://peaceito.moo.jp)に掲載してあります。参照してください。

「憲法、ミニ学習会」の目的は「安倍 9 条改憲 NO！」。その理念は「草の根の市民活動」。「学習会」が単独であるわけではなく、「改憲 NO！」の目的のために 3000 万署名を軸に多様な「草の根の活動」を追求していきたい。「川奈学習会」はその試みのスタートであり、スターターの役割を果たしたと評価したい。

◆第二回目の「憲法、ミニ学習会」を **12 月 16 日(土)に富戸コミュニティセンター**で開きます。テーマは憲法改正の国民投票です。国民投票の制度設計には大きな問題点があります。とりわけ、運動費にかかる資金に上限がないことが重大です。テレビ・新聞を使った宣伝費、ビラ・チラシの作成費、その他の運動資金に規制がありません。潤沢な資金を有する政権与党に圧倒的に有利な仕組みとなっています。こうした問題点を、模擬投票を交えながら、**「Tea+α」**の方が解説してくれます。**「Tea+α」**というのは、三島や裾野にお住いのママさんグループです。お茶を飲みながら、政治や憲法の話を気軽にしましょう、というのが会の名前の由来です。グループのお一人、永島香さんは「市民ネットワーク」の賛同者で、伊波洋一さんの講演会の時には、沖縄の写真パネルをホールに展示していただきました。そんな縁で、今回「憲法、ミニ学習会」の講師役をお願いしたところ、快く引き受けていただいた次第です。市民の運動がこうして広がっていくことが何より嬉しいことです。詳しくは同封(or 添付)の案内チラシをご覧になってください。皆さん、是非お越しください。

18年1月13日(土)、自主上映会!

標的の島 風かたか

◆三上智恵監督の最新作、「標的の島－風かたか」を伊東で上映します。「戦場ぬ止み」(16年1月)、「標的の村」(16年8月)に続いて、三作目の上映会です。この映画では沖縄本島に加え、石垣島、宮古島も描かれます。これらの島々は「尖閣」の最前線に位置づけられ、中国艦船を攻撃できるミサイルを備えた陸自部隊が配置されようとしています。また、沖縄本島には離島防衛の専門部隊=水陸機動団(日本版海兵隊)が配置されることが決まりました。アメリカの対中戦略によって、沖縄は「標的の島」と化しつつあります。が、映画は訴えます。「『標的の島』とは沖縄のことではない。それは今、あなたが暮らす日本列島のこと」

「標的の島　風かたか製作委員会」より

◆今回の上映会は、佐藤龍彦さんを中心とする「風かたか　上映プロジェクト」が主催します。若い人たちが軸になって企画・推進し、「市民ネットワーク」は側面から協力します。上映日は来年1月13日(土)、会場は「ひぐらし会館」。鑑賞券は500円。詳しくは同封(添付)の案内チラシをご覧ください。

「平和を願う集い 12.9」の案内

①日時…2017年12月9日(土) 14:00～16:00　　②会場…観光会館別館

③内容…佐々木祐滋　歌とトーク－「禎子の願い・平和への思い」－

※詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。

「INORI 」(祈り)の歌詞

別れがくると知っていたけど本当の気持ち言えなかった
色とりどりの折り鶴たちにこっそり話しかけてました。
愛する人たちのやさしさ見るものすべて愛しかった
もう少しだけでいいから皆のそばにいさせて下さい
　泣いて泣いて泣き疲れて怖くて震えてた
　祈り祈り祈り続けて生きたいと思う毎日でした
折り鶴を一羽折るたびつらさがこみ上げてきました
だけど千羽に届けば暖かい家にまた戻れる
願いは必ずかなうと信じて折り続けました
だけど涙が止まらない近づく別れを肌で感じていたから　　(以下略)

メガソーラー関連

寄稿　村を飲み込む土石流(伊東・赤沢)

加藤好一

赤沢の集落は、300 年ほど前の享保時代までは天神ヶ峰の下を通る下田街道沿いにあったという。

その谷あいの村がなぜ海側の現在地に移ったのか。原因は近くを流れる落合川（赤沢川）の氾濫にあった。それについて、対島村誌は次のように伝える。

「(大雨で) 上流に山崩れが起き、一度にどっと大水が出た。水は土石を押し流し、岩を砕き谷を洗う。一瞬で家は流され村人や動物も運命を共にした。海岸では今も地中に石碑や骨のかけらが埋まっているのを見る」(大正元年編・要約)

山崩れでせき止められた谷川の水が、ダムの決壊のように一気に村をのみこんだのだ。古老によれば、当時も人家は１２軒ほどではなかったかという。

調べると 1702 年には近くの村々が里山の楊梅 600 本の伐採を韮山代官所に願い出ていた。材木や薪となり、果実は食用・樹皮は染料となるのでよく売れたためだ。それに対して、落合川上流部の山では草木の大量伐採などはなかったのか。

乱世が終わって平和が続き、元禄時代までの開発と自然破壊の上に災害が多発したのが享保時代であった。

その教訓を学ばず、樹木を切って大量の人工物で山腹を覆えば何が起きるかは明らかだ。元の赤沢村近くの川には今も『土石流危険渓流』の看板が立ち、自然災害の恐ろしさを警告している。

【注記】

①絵図の注記や伝承の紹介は小林一之氏の御教示による。

②絵図は「寛政６（1794）年　赤沢村村境図（部分）に加筆。

【事務局から】

明日から師走。そして、まもなく年の瀬を迎えます。慌ただしさが加速される時期になりました。「市民ネットワーク」も誕生して、はや二年。昨年は発足一年目ということもあって、賛同者の皆さんに、「市民ネットワーク」の活動や通信の内容についてご意見を伺うアンケートを実施しました。今年はアンケートは取りませんが、この一年の活動等について、ご意見や要望等がありましたら、お知らせください。藤倉孝純さんから学習会の提案があって、7 月 17 日に『共謀罪のある日常』講演会が実現できました。このような**双方向のやり取りのある活動**を今後とも目指していきたいと考えています。よろしくお願いします。